

今年度の特記事項

- ・新型コロナに対し感染予防対策を徹底し、ご利用者、職員とも陽性者はいなかった。
- ・養護は各自治体との関係性を築き 6 月から 100%の在籍率となった。特養、ショートはコロナによる入所制限や入所までの動きの鈍化もあり目標に届かなかった。
- ・地域との交流、ボランティア活動も休止し行事は内部開催とした。地域への発信としてフェイスブックやインスタグラムを開始し、新たな取り組みとなった。

1.サービス向上に向けて利用者の満足を追求する

1) 快適で安心な生活を提供していくうえで快食・快便・快眠に取り組んだ。

- ・食べやすい姿勢の定着と、個々の栄養状態について、ケアカルテで共有し、サービス担当者会議で検討し各職員の意識の向上とケアの質の向上につながった。結果栄養ケアマネジメント加算を全員取得した。
- ・便の性状について共通の認識を持って取り組んだ。下剤の種類や与薬時間など工夫を重ねたが、効果は限定的だったが継続し取り組んでいく。
- ・ナースコールと電話機を更新し、東館、西館のシステムを統一。取り扱いが一元化出来、リスクが軽減した。導入した眠りスキャンと更新したナースコールを介護記録システムと連携させ、記録負担軽減と利用者状況確認のしやすさを両立させた。

2) 安全な生活を送るためのリスクマネジメントの取り組み

- ・新型コロナウイルス感染予防を最優先に、月 2 回定期的に対策会議を実施。環境面、備品の整備など感染対策を徹底した。ご家族の面会は制限し、リモートを整備しズーム面会が主流となった。対面での面会は一時期を除き休止した。月のお便りで詳しく状況を書き添え写真を同封し、少しでも安心していただけるよう取り組んだ。
- ・2021 年 1 月 3 月に職員の PCR 検査を延べ 357 名に実施し全員陰性であった。
- ・リスク管理から事故、ヒヤリハットのケアカルテへの移行を進め施設内での共有に取り組んだ。事故件数 32 件（前年度+14 件）。内自治体への報告 22 件。ヒヤリハット 272 件（前年度－159 件）。福祉機器の導入であざやすり落ちによる転倒が減少。

2.施設運営の安定

1) 養護の在籍率は 97.8%と好調であった。従来型特養では利用実績 94.9%、地域密着型特養は 91.2%。ショートステイは 76.2%であった。

2) 職員体制は、常勤職員の退職 3 名、入職 5 名。非常勤職員の退職 10 名、入職 13 名。職員の補充で事務費が増加した。職員の定着に向け引き続き取り組んでいく。

3) 特養夜勤者の適正人数化に取り組み、夜勤体制 5 人→4 人へ 8 割は実施できている。夜間のリスク管理として養護、特養の夜間緊急対応マニュアルを整備した。

3.建物管理・保守(利用者が安全に暮らせるように維持する)

- ・東館のガスポンプが経年劣化で故障し急遽入れ替えを実施、受水槽の入れ替えは次年度に持ち越した。東館の老朽化で予定外の修繕対応が必要となった。

